



▲1月5日、碧水園で行われた「舞台開き」。「神流大町神楽継承会」がまちづくり交付金を活用し購入した神楽装束を身にまとい舞を披露



▲西保育園に代わり、(仮称)社会福祉法人星王会が大川町に建設する(仮称)あそびの森の完成予想図。平成27年4月の開園を目指す

白石市の誕生

■昭和29年4月1日

白石市とその周辺6村が合併して、白石市が誕生

昭和29(1954)年4月1日、白石町・大平村・斎川村・越河村・大鷹沢村・白川村・福岡村が合併し、白石市が誕生しました。

■昭和32年3月31日

小原村が白石市に編入

県が自治体合併を推進し、小原村は白石市との合併を模索。昭和29年の住民投票でも合併希望者が絶対多数でした。しかし、小原村の中で七ヶ宿村寄りの住民から大きな反発を受け、それが治まっても、県が小原村を七ヶ宿村と合併させようと考えていたため合併は拒否されました。業をにやした本市は、内閣総理大臣に直接審査。それでも否決され、いくたびかの紆余曲折を経ました。昭和31年に新市町村建設促進法が制定された後、小原村は白石市へ編入の方向で議論が繰り返され昭和32年3月31日、小原村の白石市編入が決定し、現在にいたっています。



▲昭和29年3月5日に行われた白石市制調印式。この後、4月1日に白石市が誕生しました

市民活動団体の支援と地域コミュニティの活性化
市民活動の支援は、平成26年度は海老名市との姉妹都市締結から20周年を迎えます。姉妹友好都市交流協会と連携し、記念事業として市民団の相互交流を行うなど、さらなる親善交流に発展するよう努めます。

また、「やる気応援事業(地域コミュニティ育成支援事業)」を継続し、市民団体の活動を支援。地域コミュニティの活性化は、「第五次白石市総合計画地域計画」の各地区のまちづくり宣言を実現するため、昨年創設した「まちづくり交付金」を活用した、市民が主役の地域づくりを促進します。

- 市制施行60周年記念事業(事業費：710万円)
市制施行60年の節目の年を迎え、市民の皆さんとともにこれを祝います。未来に向け白石市の限らない創造と発展を目指し、記念式典の開催や鬼小十郎まつり映像制作事業などを行います。
- 海老名市との姉妹都市締結20周年記念事業(事業費：52万円)
海老名市で開催予定の記念式典へ市民団を派遣するなど、相互交流を行います。

Target3

市民が主役になって地域をつくり
交流を楽しむまち

放課後児童クラブは、福岡小学校の余裕教室を活用し、福岡放課後児童クラブを「福岡地区」
「子ども医療費助成事業」も、入院は中学3年生まで、通院は小学6年生まで医療費助成対象としていますが、平成26年度も継続し、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ります。
保育園は、保育サービスの充実を図るため、市内2カ所目の私立認可保育園として老朽化した西保育園に代わる民設民営の「(仮称)あそびの森」の整備を支援し、平成27年4月開園を目指します。

また、人生100年時代を見据え、高齢者が生きがいを持って社会参加することも健康維持、介護予防となるものと考え、「高齢者等地域ささえ愛互助活動支援事業」など元気な高齢者にも社会の支え手として活動していただけるよう、地域ささえ愛ネットワーク事業や身近な社会参加の場所として、ふれあいサロン活動の支援を行います。

さらに地域包括ケアシステムの構築を目標に、平成27年度から29年度までの「第6期白石市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定します。
障がい者支援は、現在の「障害福祉計画」が平成26年度末で終了することから、国の障がい者施策全般にわたる近年の動向を踏まえながら、「第4期白石市障害福祉計画」を策定します。

- 民間保育園整備の支援(事業費：1億1,485万7千円)
西保育園に代わる民間保育園の整備を支援し、市民が安心して子どもを産み育て、心やすらかに暮らせるまちづくりを推進します。
- 児童館・放課後児童クラブ運営事業(事業費：3,683万7千円)
限られた財源を効果的に活用し、利用者ニーズに応えたサービス提供を図るため、児童館と放課後児童クラブの運営を民間事業者に委託。また、地区住民で組織された大平と福岡放課後児童クラブの運営経費を助成し、次世代を担う児童の健全育成を支援します。

子育て・高齢者・障がい者を支援

Target2

安心して子どもを産み育て
心やすらかに暮らせるまち

子育て支援では、「赤ちゃん応援事業」として、妊婦健康診査費助成事業や不妊治療の医療費の一部を助成する特定不妊治療費助成事業を継続するとともに、平成25年度に流行した風しんウイルス感染を防ぎ先天性風しん症候群の発生を予防するため、風しん予防接種費用助成事業も継続します。

「子ども医療費助成事業」も、入院は中学3年生まで、通院は小学6年生まで医療費助成対象としていますが、平成26年度も継続し、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ります。
また、人生100年時代を見据え、高齢者が生きがいを持って社会参加することも健康維持、介護予防となるものと考え、「高齢者等地域ささえ愛互助活動支援事業」など元気な高齢者にも社会の支え手として活動していただけるよう、地域ささえ愛ネットワーク事業や身近な社会参加の場所として、ふれあいサロン活動の支援を行います。

また、市内2カ所の児童館と併設する4カ所の放課後児童クラブを民間に委託することで、開所時間の延長など、より一層のサービス向上を図ります。
高齢者支援では、新たに「脳の健康教室」の開催や認知症への理解を深めるための「認知症サポーター養成講座」を積極的に開催するなど、いつまでも楽しい充実した人生を送るために、介護予防、特に認知症の予防事業を強化します。